盲腸

横光利一

青空文庫

Fは口から血を吐いた。Mは盲腸炎で腹を切つた。Hは鼻毛を抜いた痕から丹毒に浸入された。此の三つの報告を、彼は同時に耳に入れると、痔が突発して血を流した。彼は三つの不幸の輪の中で血を流しながら頭を上げると、さてどつちへ行かうかとうろうろした。

「やられた。しかし、」とFから第二の報告が舞ひ込んだ。

「顔が二倍になつた。」とHから。

「もう駄目だ。」とMから来た。

——俺は下から——と彼は云つた。

彼はもうどつちへも行くまいと決心した。死ぬ者を見るより見ない方が記憶に良い。彼は三点の黒い不幸の真中を、円タクに乗つて、ひとり明るい中心を狙ふやうにぐるぐると廻り出した。血は振り廻されるやうに流れて来た。

——俺は下から、

——俺は下から、

下から不幸が流れ出す故に、頭の上の明るい幸福を追つ馳けるのだ——だが、廻れば廻るほど、彼に付着して来たものは借金だつた。——幸福とは何物だ?——推進機から血を流して借金を追ひ廻す——その結果が一層不幸であると分つてゐても、明るい空を追つかけ廻したそのことだけでも幸福だ。——それが喜ばしい生活なら、下から不幸が流れ出して了ふまで、幸福

な頭の方へ馳け廻らう。――死ねば不幸はなくなるだらう。――死なねば、幸はなくなるまい。――四人の中で死んだ者が幸福だ。――誰がその富籤を引き当てるか。――彼は競争する選手のやうに、円タクに乗つて飛んでゐた。

と、Mが死んだ。

彼は廻り続けた円タクの最後の線をひつ張つてMの病室へ飛び込んだ。が、Mの病室は空虚だつた。医者が出て来て彼に云つた。

「今日、退院なさいました。」

「どこへ行つたのです?」

「さア、それは分りません。」

――それや、さうだ。

――だが身体の中で何の必要もない盲腸で殺られると云ふことは?

――身体の中に、誰でも一つ、幸福を抱いてゐると云ふことになつて来る。

彼は円タクに乗つて、盲腸のやうな身体をホテルに着けた。ホテルのボーイは彼に云つた。

「もう部屋は一つもございません。」

その次のホテルも彼に云つた。

「もう部屋は一つもございません。」

――死を幸福だと思ふものに、ホテルは部屋を借す必要は少しもない。

彼はまたぶらりと円タクの中へ飛び込んだ。
「どこへ参りませう。」と運転手は彼に訊いた。
「どこへでもやつてくれ。」
円タクは走り出した。彼は運転手の後から声をかけた。
「明るい街を通つてくれ、明るい街を。暗い街を通つたら金は出さぬぞ。」
――盲腸が円タクの中で叫んでゐる。
彼はにやりと笑ひ出した。
――此の盲腸は、今度は誰を殺すのだらう。
――だが、身体の中に、誰でも一つの盲腸を持つてゐると云ふことは?
彼は街路を、血管の中の虫のやうに馳け廻つた。だが、此の盲腸はどこへ行くと云ふのだらう。

青空文庫情報

底本：「定本横光利一全集　第二巻」河出書房新社
　　1981（昭和56）年8月31日初版発行
底本の親本：「文藝時代」
　　1927（昭和2）年4月1日発行、第4巻第4号
初出：「文藝時代」
　　1927（昭和2）年4月1日発行、第4巻第4号
※「旧字、旧仮名で書かれた作品を、現代表記にあらためる際の作業指針」に基づいて、旧字、旧仮名の底本の表記を、新字旧仮名にあらためました。
入力：高寺康仁
校正：松永正敏
2001年12月11日公開
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

盲腸

横光利一

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/